

EIWA UNIVERSE

第30号

発行日 2024年8月9日

2024年度 入学式

ハイライト:

- **2024年度 入学式 (1p)**
- **ラジオ出演(コミュニティFM局「FM-Hi!」 (3p)**
- **新入生歓迎交流会の開催 (7p)**
- **ディプロマサプリメントの導入について(7p)**
- **後援会だより (8p)**

目次:

学長言	2
宗教委員会 ボランティアセンター	3
学科ニュース	4
キャリア支援課 連携課	6
留学生センター 学部事務室	7
後援会 研究室探訪	8

2024年度の入学式が4月3日（水）、短期大学部が午前10時から、人間社会学部（4年制）は午後1時30分からの2部制で、新館楓ホールにて執り行われ、新入生計226人（人間社会学部140人（編入生含む）、短期大学部86人）が大学生活の一步を踏み出しました。

昨年の5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられましたが、今年度も昨年度に引き続き、大学と短期大学部を午前と午後の2部制で、また座席も間隔を開けての配置による入学式となりました。

讃美歌と聖書の朗読・祈祷、学長からの入学許可宣言の後、新入生の宣誓として、短期大学部からは、

永山学長は、式辞の中で「今の世の中は経済、社会とも混乱を極め、人間

関係にも影響を及ぼし、生きづらさを感じる人は多いかと思っています。大学の大学聖句は、『愛の実践を伴う信仰こそ大切です』とあることから、英和はみなさん一人一人のホームとして、また自分らしくいられる居場所でありたいと考えています。入学後、困ったことや悩みごとがあったら、ぜひ教職員に相談してください。緑あふれるこの英和で悔いのない有意義な大学生活を過ごしてください。」と述べられました。



食物栄養学科の投野 鈴（なぎの りん）さんが「一人一人の目標に向け、新たな仲間とともに様々なことへ挑戦し、学び、成長していくこと」を誓いました。また人間社会学部からは、藤井 耀（ふじい ひかり）さんに

よって行われ「応援してくれた家族や周りの人へ感謝を忘れず、恩返しができるよう立派な姿で卒業すること」を誓いました。



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからの大学生活をともに活気ある有意義なものにしていきましょう。

（企画部 川口）

入学式当日の写真や動画は、YouTubeやInstagramでご紹介していますので、ぜひご覧ください。



あす きぼう も いの 明日への希望を持って祈ること

学長 永山 ルツ子

「何事も思い煩ってはなりません。どんな場合にも、感謝を込めて祈りと願いを献げ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超えた神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスにあって守るでしょう。」 (フィリピの信徒への手紙4章6節ー7節)



永山 ルツ子
(ながやま るつこ)
学長

ストレスとは、外部の刺激を受けて身体や心に生じる緊張状態のことです。例えば、
 天気が悪かったり、周りがうるさかったりなどの環境的要因や、病気や睡眠不足
 などの身体的要因、不安や悩みなどの心理的要因、そして人間関係がうまくいかな
 い、勉強やバイトで忙しいなどの社会的要因があります。例えば、交通事故に遭っ
 た、親しい人を失くした、被災したなど、あまりにも悲しい出来事は大きなストレスを産

み、PTSDになる場合もあり、極度の鬱やパニック障害を引き起こすこともあります。

聖書では、何事も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。と書いてあります。

マタイによる福音書6章34節でも、「明日のことを思い煩ってはならない。明日のことは、明日 自 が
 思い煩う。その日の苦勞は、その日だけで十分である。」と書かれています。明日どうなるのか、と
 心配にとらわれ、時間と心を費やし過ぎると、どうしても心は疲弊していきます。思い煩いばかりだと、
 心から喜んで今日を生きようとする活力は失われてしまいます。

皆さんは今日生きていること、生かされていることに感謝し、心配や不安に囚われず、1日1日を
 大切に充実した日々を過ごしてほしいと思います。世界中の人々の悲しみや苦悩が癒され、平和の
 世でありますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

宗教委員会

いつも本学のためにお祈りくださり感謝します。宗教主任の佐々木謙一です。2024年度も神様の祝福により、無事に新学期をスタートすることができました。感謝しております。

そのような中、4月14日(日)、15日(月)に山梨県北杜市高根町清里にある清泉寮において新入生を対象とした「スチューデント リトリート」が行われました。例年は、人間社会学部と短期大学部の日程を分けて行っておりましたが、本年は合同で貸し切りという喜ばしいスケジュールで行うことが出来ました。参加者総勢約230名ということもあり、新入生はもちろんのこと、手伝ってくれた上級生また教員も大いに楽しみ、大変充実した時間を過ごすことが出来ました。

また、チャペル礼拝は昨年と同様に1年生を対象に行っております。様子を伺っておりますと、今年の1年生は積極的に聖書を声を出して読み、また讃美歌も大きな声で歌っています。このようなことから、今年の1年生は礼拝のみならずキリスト教活動に積極的であるように思っております。



また、宗教委員会として常に学生の皆さんに何をしてあげられるかを考えております。そのような中で、静岡市近郊の教会から前期、後期それぞれに牧師先生たちよりお話をし

ていただくことになりました。また、学院長の柴田先生、学長の永山先生には毎月1回お話をさせていただくことになりました。そして、本年から学生を主体とした学内宗教活動を行うことを考え、「学生企画部」を発足することしました。メンバーはまだ3年生1名、2年生7名、1年生3名の総勢11名ですが、5月から毎週の礼拝の中の司式と聖書朗読を担ってもらっています。また、前期後期それぞれにワンコインコンサートの実施を企画しております。

このように、4月からチャペル礼拝を中心に活動をさせていただいておりますが、今後の活動として、水曜日の礼拝後に学生参加型の「お祈り会」を実施することを考えております。また、秋には創立記念礼拝、冬にはクリスマス礼拝を予定しておりますが、学生に声をかけて手伝っていただけるようにしていきたいと思っております。

最後に、わが静岡英和学院大学は、聖書の教えを基盤とした教育を行っているキリスト教プロテスタントの大学であり、イエス・キリストが教えてくださった「求めなさい、さらば与えられる」という言葉を胸に、学生への教育に励みたいと思っておりますので、どうかご支援のほどよろしくお願いいたします。

(宗教主任 佐々木)

ボランティアセンターだより

ラジオ出演！

静岡市を中心に放送されているコミュニティFM局「FM-Hi!」にボランティアセンターに所属している学生3名が出演し、その様子が本年の1月4日(木)の夕方に放送されました。「やさしい町 静岡」というコーナーにてボランティアセンターの活動や地域の方との交流エピソードを紹介させていただきました。



特に、現在、積極的に活動している子ども食堂の話が多くありました。ある学生は初めて子ども食堂に参加した際に、子どもたちが走って子ども食堂に向かって

くる姿を見て、とても楽しみにしていることが伝わってきたと話してくれました。地域の方々が子供の居場所を作ってくれていることに温かみと優しさを感じたそうです。また地域の方が企画した夏の流しそうめんの話題では、食べることができない子供を地域の方は見逃さず、子供にも学生スタッフにも声をかけ、食べられるように支援をする様子が大人の理想の姿であったという話がありました。広い視野で物事を見るとともに、目の前の支援が必要な人に手を差し伸べられる大人になりたいと学生は気づかされたそうです。また、ボランティアセンターの活動自体が人脈を増やし、自身の可能性を広げ、成長するきっかけになっているとも話をしてくれました。

大学やボランティアセンターは地域内にある一つの組織であり、地域コミュニティの一つです。地域の方とともに歩んでいけるよう、活動を通して交流を深めていきたいと思います。

(学生課 荒川)

人間社会学科

人間社会学科の佐々木謙一です。人間社会学科の5メジャーの報告をいたします。学科の活動は以下のとおりです。

心理メジャーからは、学生の努力が実を結んで、在学生在が心理学検定特1級を合格したこと、2023年度卒業生が静岡市職員採用試験（心理職）を合格したことをお知らせします。本学の心理学教育に学生が応えてくれた成果としてメジャー教員は嬉しく思います。

観光地域デザインメジャーでは、地域と密着した連携活動に力を入れているほか、国際交流への貢献も目指しています。2024年2月には、本メジャーの教員（郭）の尽力により、台湾・中国文化大学の学生の本学への来校が実現しました。今後も、さらなる地域連携活動および交流の充実をはかっていきます。

英語メジャーでは、3人の教員による英語学習への個別サポートを随時行っています。それに合わせて資格試験挑戦を中心に学外学修への取り組みを推進、単位認定制度を整備してきました。23年度はTOEICと英検によって4名が単位認定。引き続き制度の周知と学生支援を進めてまいります。

日本語文化メジャーでは喜ばしいことに、静岡県の私立高校や公立中学校など、ここ数年続けて国語の教員を送り出しています。今年度は、国語の教育実習に向けて、4年生が主体的に授業外の「模擬授業勉強会」を試みました。本学の一人ひとりの学生の中で、日本語文化の学びが、未来に生かされることを祈っています。

経済理論ゼミでは、2月に「貧困・不平等の研究会」を開催し、ゼミ生が高度な研究成果に触れました。経営学ゼミでは、静岡市産学交流センター主催の「ビジネスプランコンテスト」に荒戸ゆういち君が応募し、74名中5名残れる最終審査で奨励賞を受賞しました。

人間社会学科は留学生も多く在籍し国際色豊かな学科ではあります。教職員一同が一丸となって静岡の地に優秀な学生を送り出すように頑張っています。また、皆様のご支援があってこそ人間社会学科ですので、これからもよろしくお願いいたします。

（人間社会学科 佐々木）

コミュニティ福祉学科

「福祉を基盤に学びあうコミュニティ福祉学科の魅力」 ～居心地いい・ともに成長する環境のもとで～

その名の通り、人と人との支えあいの方と関係性を学ぶコミュニティ福祉学科には、4つのメジャーがあります。

社会福祉メジャーです。社会福祉士＝対人援助専門職を養成します。就職率は、常に100%です。2023年度の社会福祉士国家試験合格者は、受験者16人中10名（合格率62.5%）です。社会福祉の学びが、一般企業、公務員の就職に有利であることも、社会福祉メジャーの強みです。

保育・幼児教育メジャーです。子どもを育てること、子育てを支えることは、私たちにとってかけがえのない生の営みです。保育幼児教育の仕事はこれからの社会にとって不可欠です。きっと、保育幼児教育の領域で働くことに、生きがいとやりがいを感じます。

福祉心理メジャーです。支援を必要とする一人の個人に真摯に向きあい、その方の心を汲み取る専門性を学びます。これは、まさに本学科の学びの核・基盤です。

ソーシャル・イノベーション・メジャーです。共生社会の実現を目指して、社会における様々な価値を創造することを学びます。具体的には、NPO

法人、サロン等の地域の居場所や地域コミュニティをつくることを学び、地域社会において取り組みます。

では、学科長の私紹介ですが…、関西で生まれ育ち、60年間を経て、静岡にやってきました。ようやく単身赴任生活にも慣れてきました。私は、沢山の方々とともに過ごすことが大好きで、とにかくアクティブな人間です。

このたび、3名の先生方が着任されて、嬉しくてたまりません。「松野先生」は、心理学をご専門とされ、社会福祉と幼児教育の共通基盤をミクロ観点から研究をされています。「赤羽先生」は、幼児教育学をご専門とされ、幼児教育の実践理論、臨床心理から研究をされています。「飯塚先生」は、情報学をご専門とされ、情報やネットワークの教育実践を研究され、英和の全学的システム構築に貢献されています。この3名の先生を大歓迎する9名のコミュニティ福祉学科の先生方も、各専門領域をもたれる研究者であり、対人援助の養成教育の実践者であり、あたたかな心と使命感をもつ教育者です。

コミュニティ福祉学科では、福祉を土台に学びあい、学生にとって居心地いい環境を創り出して、多様性・個性をわかちあい、人と人が互いを想いあい、自他を尊重しあいながら成長していくことを目指します。

（コミ福 梓川）

現代コミュニケーション学科

キャンパスと静岡を英語で案内

「現代コミュニケーション学科のリチャードゼミでは前期の活動のひとつとして、学内の地図と施設案内が書かれた英語の冊子を発行しています。新入生、特に留学生や英語に興味のある学生のために制作するもので、英語のキャリア科目を受講しているゼミ生による写真と文章でキャンパスを紹介しています。

学生が選んだお勧めの場所が紹介されており、ゼミ生の意見で内容を毎年変えていきます。新入生がこの冊子を手にキャンパスをめぐって、一日も早く学生生活に慣れてほしいと願っています。またオープンキャンパスで行われるスタンブラリーの参考にしてほしいと思います。



キャンパス案内の冊子



静岡市の観光案内チラシ



日本平夢テラスでの取材



エスパルスドリームプラザでの取材

後期では更に範囲を広げて、静岡市の観光地を紹介する英語のチラシ「MY HOME SHIZUOKA」を制作しています。授業では最初に取り上げたい場所を検討し、取材のスケジュールを計画します。昨年はゼミ生全員で10月から毎月、清水区は三保とエスパルスドリームプラザ、駿河区は日本平、葵区は駿府城公園と浅間神社に行きレポートを作成しました。最終的にひとり一か所を選んで英語で記事を書き、チラシを完成させました。このチラシは清水港に寄港する客船の観光客に配布します。

これらの機会を通して、これまで学生が身に着けた英語を活用させることが目的です。
(現コミ R.ウッドワード)

食物栄養学科

食物栄養学科は変わります！

キーワードは「だけじゃない！！」

食物栄養学科は、栄養士養成課程の学科として、1969年に新設されました(※)。卒業生は栄養士をはじめ「食の専門家」として県内で活躍しており、就職率は10年連続で100%を達成してきております。

この食物栄養学科が、2025年度から栄養士だけではなく実社会に役立つ実践的な教育を学生に提供するため、「カフェ・スイーツ」、「ビューティー・ウェルネス」という2つの新コースを設定します。



「カフェ・スイーツ」コースでは、「栄養士の知識を活かし愛されるドリンクやスイーツを展開する！」ことをモットーに、一般の栄養士養成課程では学べない調理実習、社会で役立つ食の知識を提供します。講師は、コーヒーの国際審査員をされているプロフェッショナル講師、料理学校やフードコーディネーター教室で教えている県内の専門家、調理学校での経験豊富な当学科の小川先生に担当していただきます。

「ビューティー・ウェルネス」コースでは、「美と健康を栄養と食品の知識を活かかなえる！」をモットーに、食と美容についての最新の情報や技術を提供していきます。講師は、専門企業やその分野

のプロフェッショナルを招く予定です。例えば、静岡出身のミスユニバース、元Jリーガーで現在県内の食品会社で活躍の実務家、その他、アスリートの食に関する第一線の専門家講師を予定しております。

今後、新コースに関連して、現代コミュニケーション学科の科目との連携も検討しており、食に繋がる実用的な学習の幅が広がっていくことで、学生にとって魅力的な学びの場を提供していきます。

食物栄養学科は、栄養士「だけじゃない！！」

(※) 当時の校名、学科名は静岡英和女学院短期大学食物学科
(食物栄養 小林)



キャリア支援課

就職活動におけるSNS情報との付き合い方

～アテンションエコノミー、フィルターバブル、

エコーチェンバーって、どういう意味？～

近年、「売り手市場」という言葉が目につくようになり、企業側は新卒人材を獲得するため、様々な手段を用いるようになりました。特にインターネットを利用した様々な採用広報を展開するため、売り手側である学生の中には、膨大な情報の前に呆然となってしまう人もいます。こうした情報の奔流を乗りこなすため、SNSに頼ろうとする学生が少なからず見受けられます。



昨今、「アテンションエコノミー」、「フィルターバブル」、「エコーチェンバー」といった用語でSNSの特徴について語られることが増えてきました。それぞれどのような意味が押さえておきましょう。

【アテンションエコノミー】

SNSの中には、どれだけ注目を集めたかによって収益化される仕組みのものがああります。これにより、良いことであれ、悪いことであれ、とにかく目立つ投稿によって注目を集めようとする者が出てきます。このメカニズムが「アテンションエコノミー」です。

【フィルターバブル】

コンピュータはユーザーの検索履歴等を分析・学習しており、その人が見たいと予測される情報を優先的に表示します。このことで、利用者の観点に合わない情報からは隔離され、自分の価値観の「バブル

（泡）」の中に孤立する状況に陥ってしまいます。この現象が「フィルターバブル」です。



【エコーチェンバー】

SNSでは、自分と似た興味関心を持つユーザーをフォローしがちです。そうすると、自分と似た考えを補強する意見しか目につかなくなるため、閉じた小部屋で音が反響するような状況に陥ります。この状態を、「エコーチェンバー」と言います。

つまり、SNSの情報を信じ込みすぎると、自分の先入観や偏見をより増長させてしまう恐れがあるということです。そういう時にこそ、キャリア支援課を利用してみてはどうでしょうか。企業からの求人情報だけでなく、卒業した先輩方がどのように内定を獲得したかが分かる「受験報告書」もあります。勇気を出して一歩踏み出すことで、今までとは違う、新たな視点が得られるかもしれません。（キャリア 小林）

連携課

2024年度公開講座

2024年度の公開講座をご紹介します。

本学では、地域の生涯学習の一助として、大学・短期大学の各学科の先生方が講師となり、公開講座を開講しています。

バラエティー豊かな講座を取り揃え、興味深い内容となっております。ぜひぜひご家族や、ご友人と一緒にご参加にご参加ください。（企画部 川口）

2024年度 公開講座一覧		
日付	講師	演題
10/7(月)	食物栄養学科 彭 徳子先生	免疫学入門 -免疫のしくみ-
10/21(月)	人間社会学科 洪 明真先生	歴史地理学から考える地域 -古地図、風景画、名所図会からみた地域空間-
11/7(木)	コミュニティ福祉学科 赤羽 尚美先生	絵本を愉しむ -世界一有名なうさぎの誕生-
11/18(月)	コミュニティ福祉学科 飯塚 重善先生	日常に潜むデザイン -賢い生活のヒント-
12/2(月)	人間社会学科 波多野 純先生	ヤングケアラーの支援と研究 -困難に直面する子どもたちへの理解と支援-
12/19(木)	現代コミュニケーション学科 井口 晴雄 先生	観光の魅力 -東京ディズニーリゾートの感動を呼ぶホスピタリティ-

留学生センターだより

新入生歓迎交流会大盛況！

新しい学生スタッフ34名（日本人16名／留学生18名）とともに本年度も活動がスタートしました。昨年5月にコロナが5類感染症に移行されたことで、コロナ禍前の活動や活気が戻り、昨年度は楓祭での2日間にわたる模擬店出店や教室発表をはじめ、様々な交流事業への参加協力など、留学生や日本人スタッフが躍動してくれた1年でした。

本年度の代表には人間社会学科3年の牧田玲奈さん、副代表には宮園美海さん、倉本磨耶さん、パールさんが就任し、6月22日（土）



に予定されている国際交流フェア2024in英和をはじめ、楓祭参加、各種団体とのコラボや、高校・保育園などとの交流、日本文化体験など様々な活動を計画しており、大変楽しみです。

本年度も皮切りは4月23日（火）に実施した新入生歓迎交流会です。お昼休みの短い時間での開催ということもあり、学生たちが立ち寄りやすいようにと新館301号室で行いました。新入留



学生もコロナ禍の影響で減っているので、どのくらい参加してくれるのか心配しましたが、50人以上の留学生、日本人学生、先生方が集まってくれて、とても賑やかに楽しく交流ができました。レクリエーションのけん玉大会では、留学生が悪戦苦闘する中、日本人学生が10回以上連続成功するなどさすがの腕前を披露して、大歓声が沸き上がりました。学生スタッフが入念な準備をしてくれたおかげで、新入留学生もリラックスして参加でき、打ち解けられたのではないかと思います。

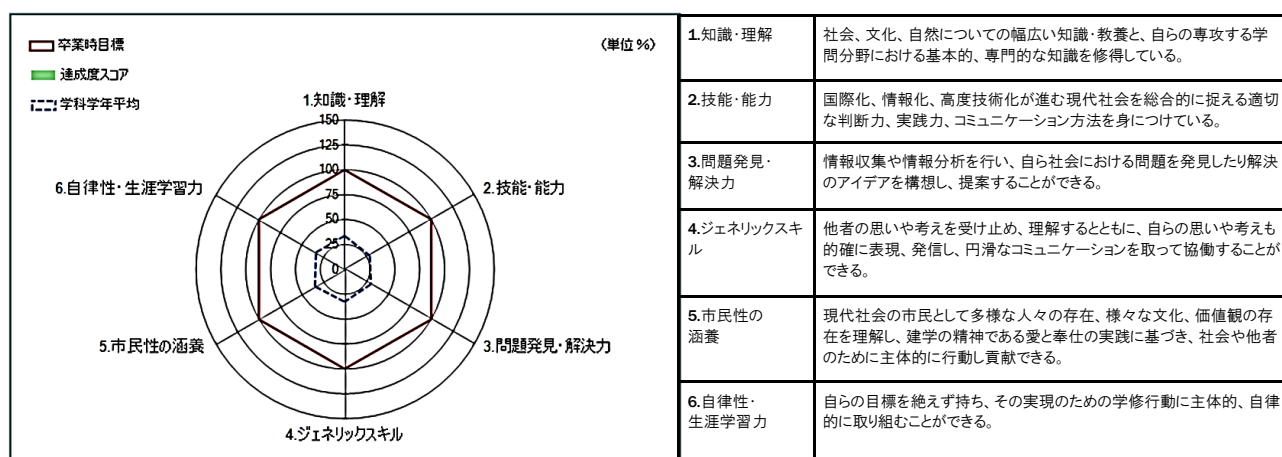
本年度も本学の理念にふさわしい国際色豊かなキャンパスを目指し、活動を推進します。
（留学生センター長 平井）

学部事務室

ディプロマサプリメントを導入しました

今年度からポータルサイトに「ディプロマサプリメント」を導入しました。これは本学が定めている卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）に設定されている6つの項目をご自身がどの程度達成できているかを視覚化したものです。シラバスに記載されている「科目とディプロマポリシーとの関係」とリンクして、単位を修得すると評価に応じてグラフが大きくなっていきます。

自分の興味のある科目を選ぶだけでなく、その科目がどの能力に関係するかも意識してみてください。ポータルサイト上で設定している目標値はなかなか達成が難しい値ではありますが、全項目ではなくても達成を目指してみてください。（目標値は卒業に必須の値ではないので、達成できなくても卒業判定には関わりません） 「ディプロマサプリメント」はポータルサイトの修学ポートフォリオから閲覧することができます。
（学部事務室 小田）



後援会だより

いつも後援会活動にご協力を賜りましてありがとうございます。今回は昨年度活動内容についてお伝えいたします。

例年通り学内奨学金の助成や学内定期清掃・樹木剪定の助成、学生食堂の食材費補助を実施するとともに、図書館の検索用パソコンの寄附や楓祭の設備工事の助成などを行いました。中でも、コンビニ前ラウンジがテーブル・椅子の入れ替えによりカフェのような雰囲気になされたことで、学生の皆さんの驚きも大きかったのではないのでしょうか。新しく設置したソファ席に加え、屋外のテーブル席まで埋まっている様子が見られ嬉しい限りです。

今年度も快適な学生生活のサポートのため、厚生福祉や奨学、施設整備などの事業をすすめてまいります。 (総務課 倉田)



研究室探訪



鈴木 正和

(すずき まさかず)

所属: 人間社会学科

職名: 教授

研究テーマ: 「小説を読み学ぶことの意義に関する研究」

私の研究

私の専門は、日本近現代文学です。私の恩師の専門が、夏目漱石や女性文学で、文学を通じて、ジェンダー・戦争・家族・人間の平等の問題等を考える研究のあり方に、目を開かれました。それは、戦争の時代に思春期・幼年期を過ごした父と母の問題を考えることであり、私自身の生の根拠を問うことでもありました。漱石や樋口一葉、田村俊子や宮本百合子等の近代女性文学、戦後文学、林京子・津島佑子・増田みず子等の現代女性文学を読むことで、人間について考えて

きました。高校と大学の非常勤講師を務めていた時には、新たな先生との出会いがあり、小説を読み学ぶことの意義や読み方の問題、文学研究と国語教育の課題、文芸批評の問題など、文学作品のことばと対峙し、その文脈を読み解くことの意

味について、考えるようになりました。また、最初に就任したのが幼児教育の学科でしたので、絵本や児童文学と幼児期の言葉の発達に関する考察も試みました。紆余曲折の人生ですが、年齢を



重ねてきた現在は、生命と存在について、倫理的な深さをもって表現された文学作品とは何か、読むこと・書くことの根源に向かつて、考えることが出来ればと思っています。



社会貢献活動

一昨年、私はある病気を患い、二度の入院と手術、夏期には連日25日間の通院治療を行いました。父と母は高齢になり、通院や介護等の対応で実家に帰省することも多くなりました。現在は、高校の出張授業やオープンキャンパスの模擬授業、オンライン上の研究会への参加、少しの文章を書くこと等に活動は留まっています。身近な人の死が相次ぎ、「生老病死」という人間の問題について、文学上の思索を深めることが、今後の私に与えられた課題かもしれません。

ゼミ活動

2年次の後期は、小泉八雲『怪談』。3年次の前期は、夏目漱石『道草』。後期は、近現代の短編小説を主に扱います。ゼミ生は、作品の梗概・解釈・疑問等を記したレジュメを作成し発表します。その後は、全員で意見交換をし、最後はまとめを行います。4年次は、卒業論文に向けて、作品の解釈と発表、論文執筆と指導によって、進めていきます。教員が読んだ作品や考えている事柄も紹介します。文学や芸術のことを考えたい人、熱意のある人に、参加して欲しいゼミです。



静岡英和学院大学
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY



〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201 FAX 054-263-4763

静岡英和学院大学短期大学部
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

最新情報 <http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

ご意見・ご感想 info@shizuoka-eiwa.ac.jp

企画・編集 学報委員会